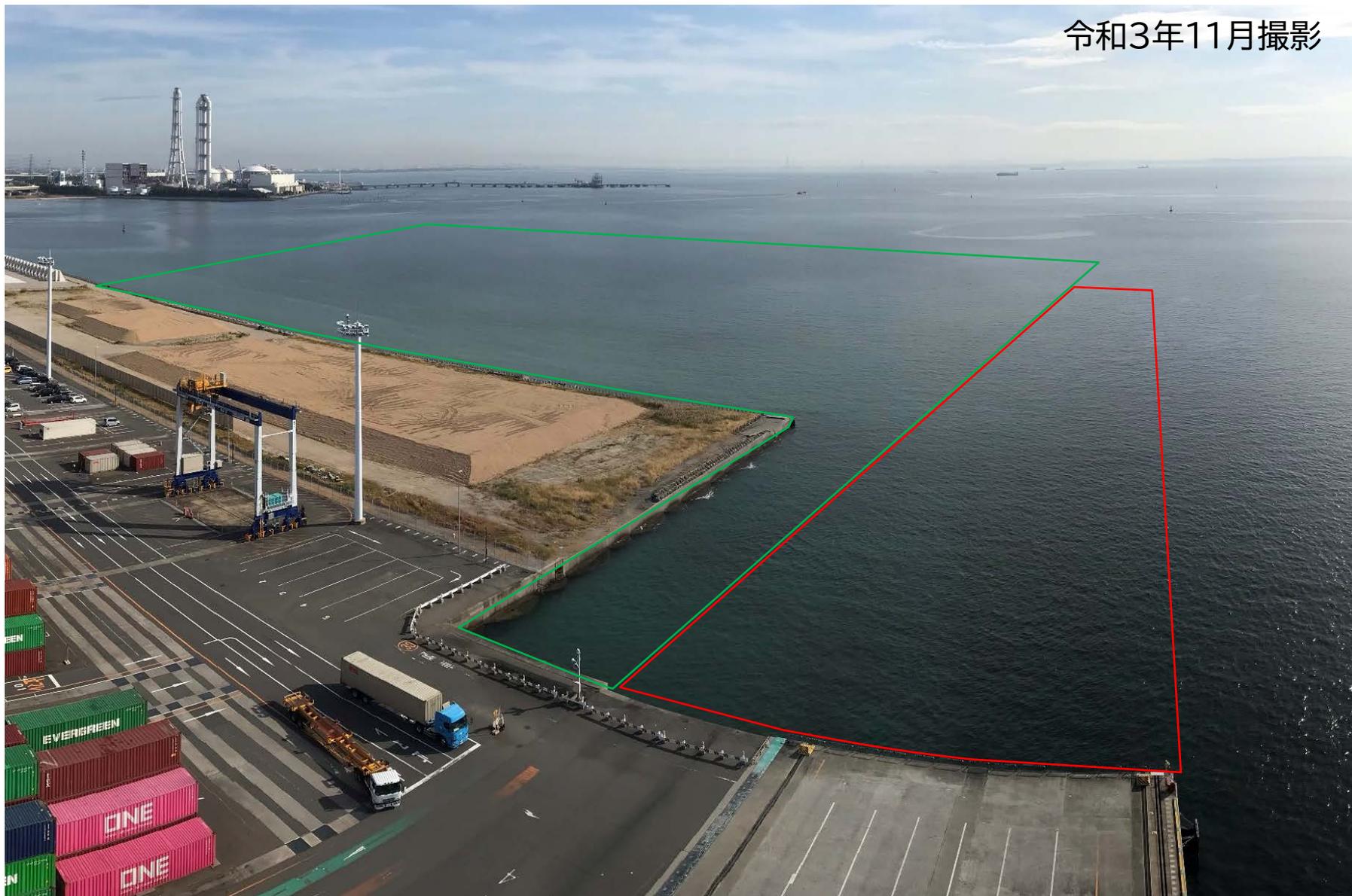


# W81号岸壁工事 着手前

凡例:  岸壁整備範囲(国直轄整備)  
 心頭用地整備範囲(四日市港管理組合整備)

令和3年11月撮影



岸壁工事では、海底の軟弱地盤を改良する「地盤改良工事」に着手しました。  
また、ふ頭用地工事では、既設護岸の消波ブロックの撤去を行っています。

令和4年2月撮影

消波ブロック撤去工事  
(四日市港管理組合)

サンドコンパクション船

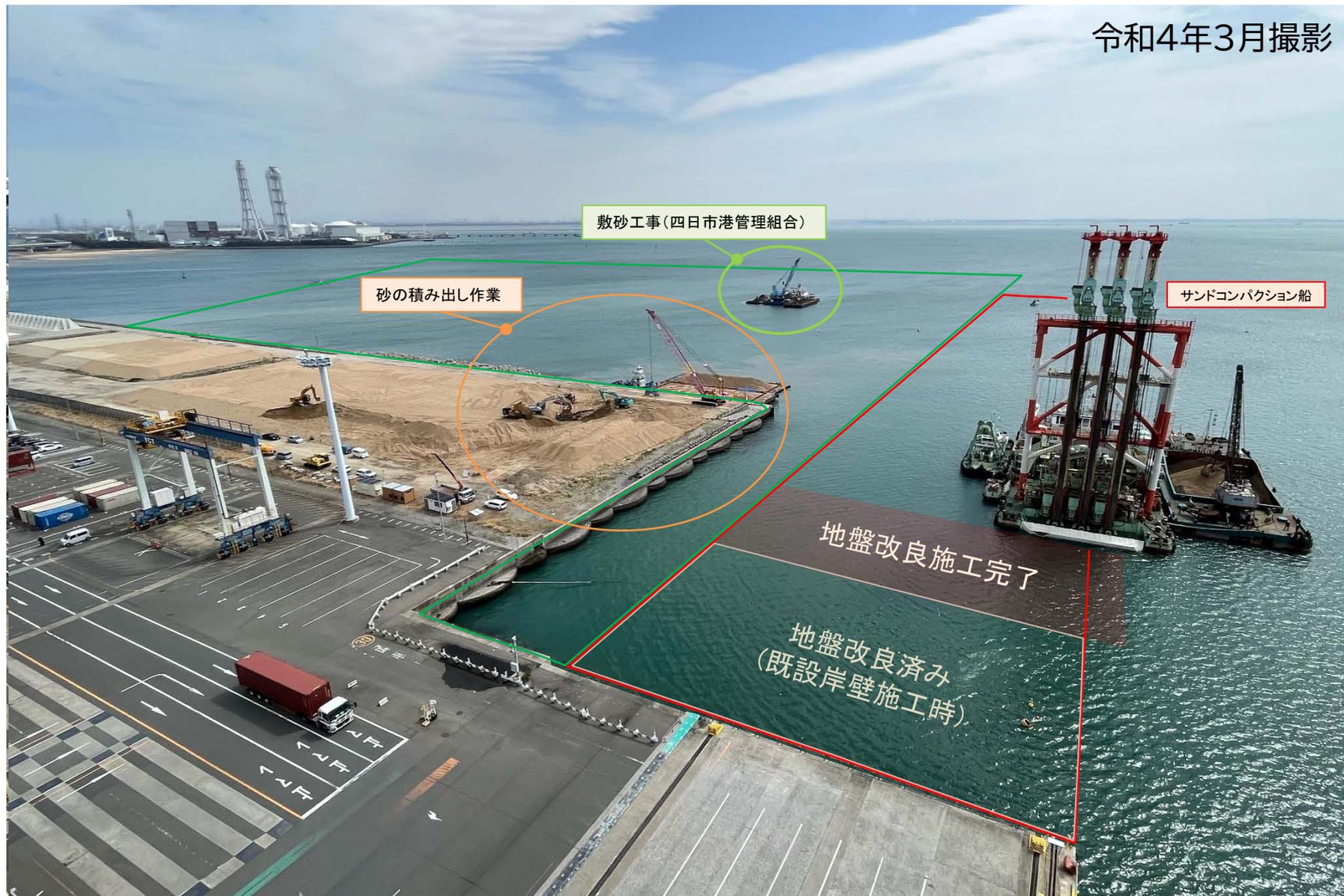
※サンドコンパクション船

軟弱地盤中に振動あるいは衝撃荷重を用いて砂を圧入し、直径の大きい締め固められた砂杭を造成し地盤を安定化させることを目的とした作業船。



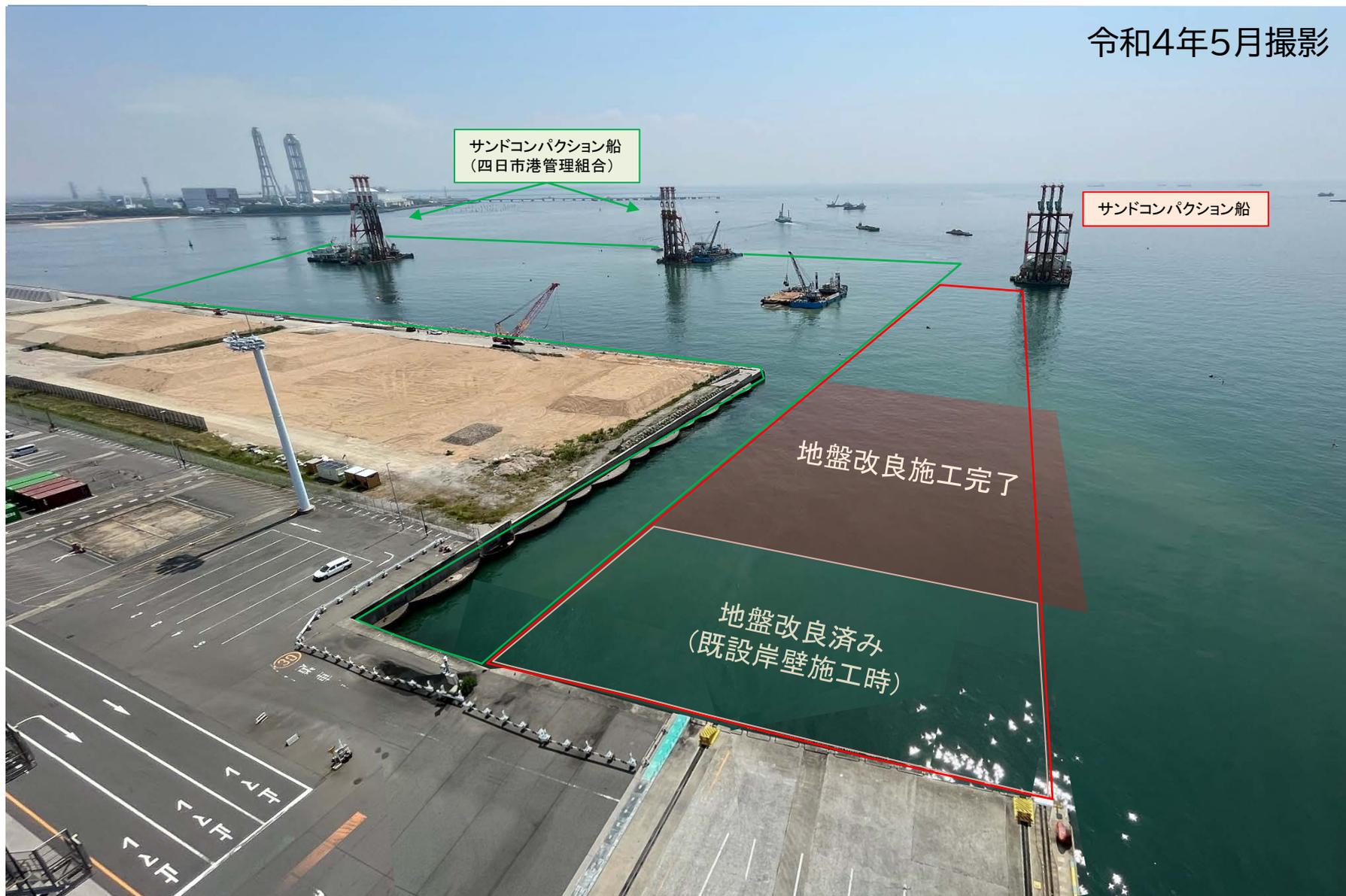
岸壁工事では、鈴鹿川より運搬してきた砂を地盤改良材として使用を始めました。  
また、ふ頭用地工事では、地盤改良のための準備として、敷砂工事を行っています。

令和4年3月撮影



岸壁工事では、地盤改良の砂杭打設が約25%終了しました。残りを7月頃より再開します。  
また、ふ頭用地工事では、サンドコンパクション船2隻による地盤改良工事を行っています。

令和4年5月撮影



岸壁工事では、地盤改良の砂杭打設が約66%終了しました。  
また、ふ頭用地工事では、地盤改良を行った箇所に石を投入し護岸を作っています。

令和4年10月撮影



岸壁工事では、15本の鋼管杭を打設し、その内の1本(試験杭)で衝撃载荷試験を実施しました。  
また、ふ頭用地工事では、引き続き、地盤改良済み箇所石を投入し護岸を作っています。

令和4年12月撮影



岸壁工事では、杭の打設から養生(約2ヵ月)後に支持力確認のため、試験杭で急速载荷試験を行います。  
また、ふ頭用地工事では、引続き護岸の整備を行っています。

令和5年2月撮影



基礎石を投入する範囲において、堆積中の土砂を掘る「床掘工」を実施しています。浚渫した土砂は、岸壁背後の埋立地にバージアンローダ船を用いて投入し、埋立材として再利用しています。

令和5年7月撮影



バージアンローダ(揚土)船

土砂を船で運びます

配管で土砂を送り、ふ頭用地の埋立に再利用

グラブ浚渫船

※浚渫  
浚渫とは海底の土砂やヘドロを取り除くこと。

※バージアンローダ(揚土)船  
揚土船に乗せた土砂に注水し、それを揚土ポンプにて吸い上げ埋立地まで排送する作業船。

※グラブ浚渫船  
グラブバケットと呼ばれる土砂をつかむ機械を使用し浚渫を行う作業船。

地盤改良工事と床掘工事を輻輳して行っています。令和5年11月末で岸壁範囲の地盤改良工事は全範囲施工完了し、床掘工事は約50%施工完了となります。

令和5年11月撮影

バージアンローダ船  
(揚土作業)

サンドコンパクション船  
(地盤改良作業)

グラブ浚渫船  
(床掘作業)

※バージアンローダ(揚土)船  
揚土船に乗せた土砂に注水し、それを揚土ポンプにて吸い上げ埋立地まで排送する作業船。

※サンドコンパクション船  
砂杭を軟弱地盤に打設し、地盤中の水を滲み出させることで地盤の改良を行うための作業船。

※グラブ浚渫船  
グラブバケットと呼ばれる土砂をつかむ機械を使用し浚渫を行う作業船。

